

最終提言素案 (021028 版) について、第 16 回猪名川部会で議論すべき事項  
(委員からのご意見)

| 分野、または素案の該当箇所                          | 11/8 部会にて部会として議論すべき内容  | 委員名 |
|--|--|-----|
| P.1-4 17 行目<br>1-4 猪名川流域の特性            | (淀川流域の特性の記載に準じて) <地勢的特性> にダム <sup>1</sup> の現状(既在、工事中)を列挙する。                                      | 畚野  |
| P.3-2<br>3-2 新たな治水の理念                  | 堤防強化により決壊の危険を低下させることは重要であるが、基準の見直しによるほとんど全区間に及ぶ河川堤防の改修が、今後の財政事情の下で可能か否か。                         | 畑   |
| P.3-3、7 行目<br>3-2 新たな治水の理念             | 災害を受忍する思想と提言素案の理念との隔たりをどう埋めるか。   | 畑   |
| P.4-4<br>4-2 治水計画のあり方                  | 多くの改修すべき河川区間の中から、限られた予算に従っていかなる順序で優先的に改修すべき箇所を決めていくか。破堤危険度、破堤による被害の甚大度等に基づく優先度決定手法。              | 畑   |
| P.4-5 8 行<br>4-2 治水計画のあり方<br>(1)2)流域対応 | 社会的重要度による洪水氾濫の誘導手法の問題点、住民合意の方法。  | 畑   |
| P.4-9 19 行目<br>4-4(5)高水敷利用             | 「 <u>長期的には堤内地に戻していくことを目標とする。</u> 」を、「 <u>自然復元計画の進展に伴い段階的に堤内地に戻していくことを目標とする。</u> 」と、より明示的な表現としたい。 | 畚野  |
| P.4-12 23 行目<br>4-5(1)<br>3)ダム・堰       | 「 <u>魚道設定を含む堰の構造の改善と運用ルールの改善を積極的に行うことが必要である。</u> 」(下線部分挿入)                                       | 畚野  |
| P.4-16~18<br>4-6 ダムのあり方                | A 案、B 案の違いについて、深い議論が望まれる。私は長期的な観点から見れば、B 案であるべきと考えます。  | 畚野  |